倉吉銀座商店街

(倉吉銀座商店街振興組合)

鳥取県倉吉市

インバウンド

抽齿熔值

新陳代謝

生産性向上



「倉吉銀座復興プロジェクト」や地域コンテンツの活用で 「新しい倉吉」を PR。新規出店が増え、組合員数も 5 年で倍増!

基本データ

所 在 地 鳥取県倉吉市明治町 人 口 約5万人(倉吉市)

電話/FAX 0858-22-4118 / 0858-22-4118

U R L http://www.chuokai-tottori.or.jp/k-ginza/

K-gii iza

会 員 数 57名

店舗数 57店舗(小売業23店、飲食業13店、サービス業2店、金融業4店 原源サービス

ビス業7店、金融業4店、医療サービス業2店、その他8店)

商店街の類型 エリア価値向上型

主な客層 高齢者、家族連れ(親子)/60歳代、70

歳代以上

商店街概要

倉吉銀座商店街は、明治 45 年、当時の日本国有鉄道倉吉線の倉吉駅前の商店街として誕生した。戦後も地域住民や周辺町村からの通学・通勤者、買物客等で大いに賑わいを見せた。昭和 26 年には任意団体として倉吉商店会を設立し、昭和 59 年に法人化して倉吉銀座商店街振興組合となった。

人口減少や車社会の到来により昭和60年に倉吉線が廃線になると、商店街は衰退の一途を辿り、一時は商店街の体を為さなくなる寸前まで追い込まれた。しかし、この危機が組織の結束を強めることとなり、若い経営者も商店街活動に参画するようになった。新規出店にもつながり、組合加盟店舗数も増加している(平成25年28店→平成29年57店)。

取組の背景

商店街を襲う度重なる試練

倉吉銀座商店街が立地する成徳地区の世帯人口は、倉吉線廃線の昭和60年から比べ55%と大幅に減少している。さらに、地域住民の高齢化による人口減少、後継者不在による空き店舗の増加が進み、商店街の活気や魅力は低下していた。また、平成27年の大正町火災、平成28年の大雪や鳥取中部地震(震度6弱)の発生により、各店舗は深刻なダメージを負うこととなった。

一方で、商店街に隣接する観光地「白壁土蔵群・ 赤瓦」は、約20年間の取組により、現在では年間約60万人が訪れるまでに成長している。商店街として も観光客のニーズに対応したコンテンツを備え、商店 街への回遊性を高めていく必要があると考えていた。

取組の内容

ひと味違った切り口で「新しい倉吉」を創り上げる

商店街が抱える課題に対し、まず取り組んだことは、「組織改革」と「連携体制の強化」である。

平成28年度には、商店街と民間企業、まちづくり会社の3者が連携し、倉吉市中心市街地活性化協議会がバックアップする形で、エリアの再活性化と復興、拠点整備の検討を開始。3者の連携体には地域の若者たちも加わり、現在の逆境をバネにして商店街を大きく盛り上げようと「倉吉銀座復興プロジ

ェクトーを立ち上げた。

平成 29 年 4 月には「銀座春まつり」、6 月には「銀座復興ウェディング」をそれぞれ初開催。7 月には昭和 26 年から続く「銀座土曜夜市・打吹天女伝説まつり」を行い、10 月には鳥取中部地震復興を目指した官民連携「鳥取中部福興祭」を開催したことで、大きな賑わいの創出に成功した。これらのイベントは全国版のメディアにも取り上げられ、イベント開催ごとに参加者が増えるなど、地域内外での認知が高まっている。





銀座土曜夜市

鳥取中部福興祭

次に、倉吉の強みを活かした、他の商店街にはないブランド構築に着手。

倉吉市は、(株) コナミデジタルエンタテインメントによるキャラクターバンドコンテンツ「ひなビタ♪」の聖地として近年大変な注目を集めていた。この強みを活かし、平成29年3月に中国運輸局・倉吉まち魅力開発プロジェクトに商店街も連携した、「ひなビタ♪」協力の震災復興イベント「くらよし復活祭!・ありがとう祭♪」を開催。その結果、全国各地からファンなど約1万人が来場し、大きな賑わ

いを生んだ。

また、このコンテンツを活かし、商店街各店舗に「ひなビタ♪」に登場するキャラクターパネルの設置やスタンプラリーの展開、「ひなビタ♪」の舞台である架空都市の「倉野川市」の名産品「ちくわ」を使ったオリジナル料理の提供、倉吉観光マイス協会による倉野川市住民票発行サービス等、来訪者を飽きさせない取組を次々行ったことで、商店街のイメージ刷新につながり、若い世代を中心とした新たな層の取込みに成功、リピーター増加にもつながっている。



ひなビタ♪と商店街の連携 (ひなビタ♪コスプレイヤー商店街来店) ®Konami Digital Entertainment



ひなビタ♪と商店街の連携 (キャラクターパネル設置) ©Konami Digital Entertainment

さらに、商店街そのものの魅力を底上げするため、空き店舗活用にも積極的に取り組んでいる。具体的には、市のチャレンジショップ事業と連携を行い、若い起業家の出店を促進している。U・Iターン者の受け皿としても重要な役割を果たしており、平成28年12月までに4件の起業があり、空き店舗が4件解消。着実に商店街の魅力アップにつながっている。

取組の成果

強い結束力と柔軟な企画力による取組の加速化

「倉吉銀座復興プロジェクト」の始動に伴い、商店街では、月2回のワーキンググループ開催が定例化され、イベントの企画運営や空き店舗の出店促進等について継続的に検討を行っている。

企画したイベントについては、県内外のメディア

から注目を集めている。各イベントの来場者数は、「銀座春まつり」が約2千人、「銀座復興ウェディング」が約500人、「銀座土曜夜市・打吹天女伝説まつり」が約4千人で、「鳥取中部福興祭」では約6千人にのぼる。

また、本プロジェクトを通じ、加盟店舗数は年々増加傾向にある。平成25年に28店舗だった組合加盟店舗数は、平成29年には57店舗と倍増。今後も、商店街、民間企業、まちづくり会社の3者連携体制を強固にしながら、商店街の核施設となる「旧ナショナル会館跡地整備事業」や、空き地整備や空き店舗活用促進等の取組を行っていく。

実施体制

倉吉銀座商店街の現在の組織体制は、理事長 1 名、理事 9 名、組合員 47 名である。少しずつ集まりつつある若い力を結集し、ブレーンストーミングをやりながら情報共有を図り、各種新規イベントを企画・実施してきた。イベント等の成功を重ねることで、人が集まり、それが地元メディアに取り上げられることにより、広く PR ができている。その結果、各方面から情報が集まるようになり、次なる展開につながっている。

財源は、商店街が経営する駐車場事業での確保に 努めている。これにより、組合費の値上げをすること なく、安定的な運営ができており、新規事業にも積極 的に取り組めている。各種取組の継続実施には、倉 吉市タウンマネージャー、地域おこし協力隊の運営サ ポートも鍵となっている。また、各種のイベント実施 に際しては、官民連携の実行委員会形式をとることで、 各分野の情報網を活用して広報を行えている。

キーパーソンからのコメント



急吉銀座商店街振興組合 写真左より 専務理事 井上 裕貴 会計理事 小林 宣之 理事長 小林 健治 理事 戸崎 隆之

倉吉銀座復興プロジェクト始動

景気の低迷による核店舗の撤退などで商店街の商売が低迷している中、火災や地震、大雪と、度重なる災害に見舞われ、各店舗は大きなダメージを受けました。その結果、来客数が大幅に減り、これまで実施していた定例の理事会だけでは、商店街活動を活性化することが難しくなっていました。そのような中、商店街を取り巻く環境の悪化を何とか食い止めなければならないという使命感に満ちた若い組合員が立ち上がり、今回のプロジェクトが進み始めました。

復興から「福興」へ!商店街活性化

プロジェクトを推進するべく、月2回のワーキンググループを開催しています。「倉吉銀座商店街は元気だ!」というメッセージをイベント等を通して全国へPRし、盛り上げにつなげています。今後は、リノベーション等で空き店舗に新規出店者を精力的に募り、継続的に魅力あるイベントを実施していく予定です。また、白壁土蔵群、商店街の核施設として整備を目指す「旧ナショナル会館跡地整備事業」とも連携し、災害前よりも賑やかな商店街を作っていきたいと思います。